



静岡県知事賞

## 大すきなももちゃん

二年 相羽風祈

ぼくのいえでは、しば犬をかっています。名前は『もも』。なんでももという名前をつけたかという  
と、赤ちゃんの時、はなの近くがピンク色で、とてもかわいらしかったからだど、おばあちゃんが教え  
てくれました。ももちゃんは十二さい。人間の年れいになると、七十三さいくらいのろう犬おばあちゃ  
んです。ももちゃんは、ぼくが生まれる前から、わがやにいました。ももちゃんは、ぼくの大切なかぞく  
の一いんです。ももちゃんのいないわがやは、ぼくは考えられません。

ぼくが五さいの時、ももちゃんがなくなってしまうことがありました。さん歩のと中で、リード  
がはずれて、ももちゃんがまい子になってしまい、三日間もかえってきませんでした。その時ぼくは、  
「大じょうぶかな。」

と、とても心ばいになりました。ぼくだけではなく、かぞくみんなで、ももちゃんのことを心ばいしま  
した。ももちゃんのいないいえは、くらくてさみしくて、とてもつらい気もちになったことをおぼえてい  
ます。ももちゃんがないだけで、かぞくがこんなつらい思いをするなんて……。ももちゃんのそんざ  
いの大きさがわかりました。ももちゃんが見つかって、いえにかえってきた時は、うれしくてうれしく

て、かぞくでももちゃんをむかえました。おばあちゃんやおねえちゃんが、なみだをながしてよろこん  
でいたことが、今でもわすれません。

ぼくのいえのげんかんの前に、ももちゃんのおうちがあつて、ぼくが学校へ行く時やかえつてきた  
時は、元気がいいと、しつぽをふつてでむかえてくれます。そのすがたが、とてもかわいらしいです。

わがやでは、おじいちゃんが一ばんのかいぬしです。前におじいちゃんが、

「ももちゃんのあごの下を、こんな風になでてあげると、ももちゃん気もちがいいよ。」

とおしえてくれました。それからぼくは、ももちゃんのおごの下をなでてあげるようになりました。そ  
うしたら、目をとじてあごをじめんにおしつけ、気もちよさそうなポーズをとつてくれるようになり  
ました。そんなくつろいだようすは、とてもかわいらしいです。ももちゃんは、ぼくと会話ができない  
けれど、心と心が通じ合っている気がします。ぼくは、いやなことがあつた時は、ももちゃんとあそぶ  
ことがあります。そうすると、ももちゃんはやさしい目をして、ぼくをいやしてくれれます。ももちゃん  
にたすけてもらうことも多いです。

ももちゃんは、年をとつて元気がないことがふえました。ももちゃんをいたわつてあげながら、もも  
ちゃんにいやされ、ももちゃんといっしょの生かつを大切にしたいです。